メープルレター（７３）

初夏（？）

カナダの東海岸でも、日向でやっとチューリップや木蓮が咲き始め、通り過ぎる人達の顔にも微笑みが浮かぶようになりました。雪割草はしたたかなのか、雪を押しのけて青紫の花のじゅうたんをそここそに広げています。北国の春の第一歩です。

大きな出来事もなく、春を待ちながひと月分の年をとりました。４月始めにはイースターがありました。孫たちとイースターをと思っていましたが、都合が合わず、マダム田中はドリトル先生と二人で、マリーナのクラブハウスでイースターブランチを楽しむことになりました。このクラブハウスは、イギリスの流れをくむだけに本来は、ローストビーフが絶品なのですが、物価高騰のせいなのか、ローストビーフはなく、焼きすぎの子羊の肉や鮭のバター焼きがメインとなっていました。アントレやオードブルの品数も少なく、朝ごはんになるパンの品数も少なく、イースターのブランチビュッフェの楽しみが少し減ってしまいました。このクラブハウスの素晴らしいのはイベントに合わせた、テーブルセッテイングとサロンのデコレーションです。あのダサい食堂があっという間に、ビュッフェ形式の豪華なサロンとなっていました。

その後は遠まわりをして、長男の家のイースターのチョコレート探しに参加しました。５人の子供のそれぞれの部屋に２０個の小さな卵型のチョコレートが隠され、よーいドンで一斉に探し始めます。２歳児も負けていません。おっとと。。。すっころんで、頭を角にぶつけて泣き叫んでおります。

探す時間は１５分。誰が一番早く確実に２０個を探し出すか競争です。長男は、全部覚えていられないからと、各部屋のチョコの隠し場所をスマホで写真に撮っておき、見つからない場合はそれを参考にしていました。隠し場所は本棚や洋服ダンスなどは古く、ギターの中だったり、お人形の中だたり、シェイビングクリームの底に突っ込んでおいたり、かなり手が込んでいました。

娘は、この日はお義母さんの接待に追われ、帰った翌日に我が家に食事にやってきました。孫娘がこのところ、教会の鐘の音を聞くのにはまっているとかで、夕方６時に　隣のノートルダム教会の鐘の音をテラスからうっとりと聞いて帰えっていきました。子供達のイースターの過ごし方はそれそれです。

４月半ばには、義理の長男の次女が２歳の誕生日を迎えました。長男にとっては３人目の子供、お嫁さんにとっても３人目の子供です。双方二人の連れ子の再婚同士ですので、この次女は二人のつなぎ目のような子です。義理の長男は、合わせて五人の子持ちの大所帯になり、いつも子供が走り回っていたり、地下でピンポンをしたりと動きの多い家族です。

この次女は、娘の長女とひと月半違いのほぼ同年齢です。まあ、親によってこうも違うものなのでしょうか、二人の気性は正反対と言えます。娘の長女は小柄で芸術家肌というか、美しい物や美しい音に魅かれ、長男の次女は大柄で自己主張が強く、行動派と言えます。この従妹同士の二人が将来どうなっていくのか楽しみです。ドリトル先生の孫は６人で、女の子が４人。どの子もなかなか美女ですので、囲まれて嬉しそうです。

義理の長男の嫁の連れ子の一人は、母親のようにプロテニスプレーヤーになりたいとひたすら、トレーニングを続けています。まだ１７歳の高校二年生です。６月にスポーツ専門（授業の半分（午前中）は普通の授業でもう半分（午後）はスポーツ（テニスのみ）です）のセカンダリーファイブ（高校二年生）の教育課程を終えます。卒業後は、１年間通信教育で高校３年生の授業を続け、修了後はアメリカの大学にスポーツ入學することになっているようです。テニスの試合が多く、世界中を動くため、学校で授業を受けるのは難しいこともあり、通信教育を選んだようです。

「クラスメイトもテニス続けるの？」

「ううん、皆、それぞれで僕ひとりかな？」

「孤独な道だね。たった一人か。。試合ばかりでストレスが多いし。」

「そうだね。でも、僕ストレス大好きよ。」

「そんな強がり言って。」

試合の前は、顔が引きつっているのに、１７歳の少年はなかなか強気です。１７歳以上は大人のカテゴリーにはいるので、簡単に試合に勝てなくなります。試合に勝つとポイントがもらえ、資格があがり、報酬も多少あるようです。嫁曰く、一位を取らない限りは、手に入るお金は雀の涙。旅の経費が出るのがやっと。この子がアメリカの大学に入りテニスを続けると、大

学の経費の半分の奨学金がでるそうですが、後の半分は親がかりとなるそうです。１年間の結果を見て、全額支給になるようです。

プロの道は厳しいのか、日常生活もストイックで健康な体を保つため、夜更かしはせず、食事制限も厳しく、糖分を減らしたんぱく質をとり筋肉を増やすことに専念しているようです。この世界では、１７－１８歳になると、身長と筋肉のつき方を計算しその段階で、将来性があるかどうか判断され、淘汰されていくのだそうです。地道な努力だけではどうにもならない、天性の物が数字ではじきだされるようです。プロの道は厳しそうです。

「それでも、僕はこの道を行く」

がんばり続けるこの子の背中をみていると、ため息と拍手の入り混じった複雑な気持ちになります。